

「10年後の村」を 一緒につくる



定着率 80%！村のファンを増やす仕掛け人募集



魚沼市の山あいにある福山新田という集落

全国に誇る米どころ魚沼。そんな魚沼市の山あいにあるのが「福山新田（ふくやましんでん）」集落です。初めてお越しになる方は「この先に本当に家なんてあるのだろうか？」と不安になるほど人里離れた地域で、冬は豪雪地「魚沼」の中でも屈指の雪深さです。

福山新田には約 100 人の方が暮らし、お年寄りが多いいわゆる「限界集落」ですが、一方で近年、福山新田に移住される方も見られるようになってきました。2016 年に住民有志の団体「福山新田山暮らし支援会」を立ち上げ、“移住 1 年目から米づくりができる” をキャッチフレーズに移住や就農をサポートし、2016 年から 2024 年の間に 10 人の方を受け入れ 7 人が福山新田に定着するなど、今では住民の 1 割以上が移住者となっています。地域おこし協力隊もこれまで 5 人福山新田集落に着任し、このうち 4 人が集落もしくは周辺集落に定住しています。

山あいの雪深い小さな集落にも関わらず、これだけ移住者が多いというのは、福山新田には外から来る人たちを魅了する何かがあるのでしょう。



『婆ちゃん達の笑顔が続く村』を目指して

『これから福山新田がどんな集落になったら良いと思いますか？』

福山新田に暮らす人たちに訊ねたところ、

『10年後・20年後なんて生きてるかもわからねえから正直よくわからねえ。でも10年後・20年後に福山新田が無くなってたらさみしいよね。』

こんな答えが返ってきました。

一般的に地域づくりというと、これからの地域の在り方について話し合うワークショップが行われ、ポストイットを使ったりして地域づくり計画としてまとめていく…というようなやり方が行われることが多いのではないのでしょうか？

「10年後にこの集落がなくなっていたら寂しい」——このような素直な声が、福山新田の未来を考える出発点となりました

私たちは、ここに暮らす人たちがいつまでも笑っていられる村であり続けることを目指しています。



(福山新田にある素材でつくる苔玉)

積極的に移住者を受け入れる福山新田、そしてこれからの想い

“いつまでも笑って暮らしていける村” にしていくためには、福山新田の暮らしを守り続けること、いわば“集落の存続”だと考えています。そのためにこれまで様々な活動に取り組んできました。

① 移住者の受入と暮らしのサポート

「福山新田山暮らし支援会」を中心に魚沼市役所として連携して首都圏で開催される移住相談会に出席したり、web 上での福山新田の暮らしの発信、移住や就農に興味がある方たちに対するオンライン相談やお試し移住の拠点「迎賓館ふくやま別館」の運営などの移住支援を行っています。

② ムラの農業・農地を守る

福山新田の暮らしの基本は稲作になります。このため集落を存続させるということは、米づくり・農地を守るという側面が大いにあります。米づくりに興味のある移住者・移住希望者の人たちに対して農業指導を行い、実際に移住した人のほとんどが大なり小なり米づくりに関わり、貴重な農業の担い手として活躍いただいています。

また地域おこし協力隊卒業生の中には、既存の農家の皆さんの作業軽減を図るためにスマート農業に取り組む人もいて、集落の農業・農地の維持に努めているところです。

③ 福山新田を知ってもらう・関わりを育む活動

2020 年度から福山新田にある「福山峠のふるさと広場」の指定管理を受け、公園・キャンプ施設の管理、イベントの企画運営などにも取り組んでいて、年間約 5,000 人の人たちが福山新田を訪れるようになりました。

④ このほかの福山新田で行われている取組

- ・福山新田では白炭と呼ばれる火持ちの良い炭づくりが伝統的に行われています。
- ・地域の婆ちゃん達のお茶会「よらん会」が中心となって、山々にある材料を採ってきて苔玉づくりを行っています。地元の直売所などでも販売してちょっとした婆ちゃん達のお小遣いになっています。
- ・約 10 年前から昭和女子大学の学生さんを毎年受け入れ、様々なかたちで福山新田の活動をサポートいただいています。集落の人たちも毎年学生が来ることを楽しみにしています。

私たちは福山新田の暮らし、そして「10 年後にこの集落がなくなっていたら寂しい」という素朴な声に共感してくれる仲間を増やしていきたいと考えています。そのためには福山新田のことを知ってもらう・地域外の人たちに関わってもらうことが必要です。

一方でだんだんと活動が多岐に渡ってきたことで、「福山新田山暮らし支援会」のメンバー

だけで活動していくのも限界に近づいているのが現状です。

そこで、このような私たちの考え方に賛同いただき、「福山新田のファンを増やす仕掛け人」を地域おこし協力隊として募集します。



(地域で採れた「ぜんまい」を丁寧に揉む。自然と共存する福山新田の暮らし)

地域おこし協力隊としての活動内容

今回募集する地域おこし協力隊には、『福山新田の暮らしや活動に共感していただける人の輪を広げる』ことが活動のテーマになります。

具体的には、「福山峠のふるさと広場」をはじめ、田んぼや畑、特徴的な炭焼き、自然の恵み、暮らしの営みなど、福山新田そのものをフィールドに、地域外の人たちが訪れ、福山新田の暮らしに触れるきっかけづくりを行っていただきたいと考えています。単なる農業体験・田舎体験のイベントを実施するのではなく、あくまでも福山新田への共感者（人の輪）を増やしていくことを目指していきます。

【地域おこし協力隊の活動】

STEP 1. 福山新田に暮らす人たちとの関係性づくりがすべての土台

- ・とにかく集落の方と仲良くなる。
 - まずは各世帯へのあいさつ回りからスタート。一緒にお茶を飲んだり、集落の共同作業などに積極的に参加して人の顔と名前を覚えましょう。
 - 福山新田にはお母さんたちのお茶会「よらん会」があります。このような場にも積極的に顔を出してください。
 - 福山新田のひと・もの・ことを知る。

STEP 2. 人の輪を広げる（共感者を増やす）ための仕掛け

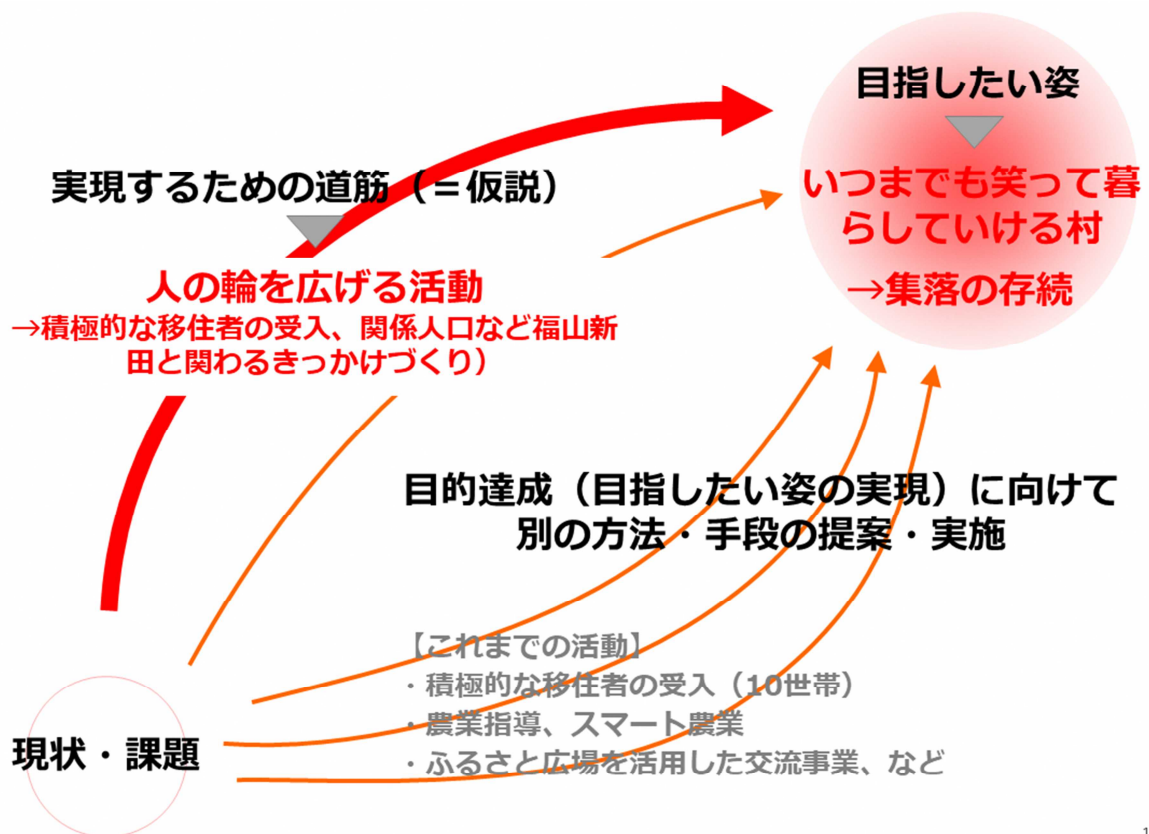
- ・福山新田にある資源（ひと・もの・こと）を活用した情報発信
- ・福山新田を訪れる・地域の暮らしを知る・関わるイベントの企画・実施
- ・移住相談への対応サポート、など

STEP 3. 目的達成に向けて「人の輪を広げる活動」以外の提案・実施

- ・今回募集する地域おこし協力隊の活動テーマは「人の輪を広げる活動」ですが、“いつまでも笑って暮らし続けられる村”の実現に向けて、こんな取組をやったら良いんじゃないか？こんな活動をやってみたい、などの提案も大歓迎です。

STEP 4. 3年後の自立に向けた活動

- ・地域おこし協力隊卒業を見据え、就農や炭焼き、地域資源を使った生業づくりなどに活動時間を充てていただくことも OK です。



協力隊をサポートしてくれる方たちのお話

今回、地域おこし協力隊を募集するにあたり、「福山新田山暮らし支援会」の代表で世話人となる田淵一平太さん（元地域おこし協力隊）、福山新田集落の現代表の野村寿さんに話を伺いました。

Q. まずは福山新田という集落のことについて改めて教えてください。

- 福山新田は魚沼の中心地から車で 30 分以上かかる山あいであって、冬場は 3～4m くらいの雪が積もります。そういった意味では冬は本当に厳しい環境ですね。
- ただ一方で、冬の降雪があるから美味しいお米や山菜が採れたりというメリットとなる部分もあるんです。
- あと収入源としては、現役世代の方は米づくりと何か（酪農、公園管理、除雪等）を組み合わせることで生計を立てています。なので一年間でいくつかの仕事を組み合わせる生活している感じです。

Q. 田淵さんは以前は地域おこし協力隊として活動して、現在福山新田に定住されていますが、田淵さんの目から見た福山新田の特徴などはありますか？

- そうですね。福山新田の人たちはシャイな人も多いですが、決して薄情な訳ではなく、その距離感がちょうど良いと感じます。普段は優しく見守ってくれている感じですし、こちらが「教えてもらいたい」と話しかければ嬉しそうに答えてくれます。
- 私にとってその距離感が絶妙で、人も自然も本当に心地が良い場所です。

Q. 福山新田としての目標が“いつまでも笑って暮らしていける村”、言い換えれば福山新田という集落をこれからも維持していくということ。“集落の存続”という非常にシンプルで分かりやすい考え方ですね。

- このまま何もしなければ福山新田は先細る未来しか見えません。現状維持することすら難しい状況です。一方で山あいで雪深く生活条件が厳しい集落なので、そのような集落をあえて残し続ける必要があるのか？という意見もあるかもしれません。
- 福山新田ではワークショップをやって計画を策定してというかしこまった取組ではなく、「10 年後にこの集落がなくなっていたら寂しい」という素朴な住民の声がもっとも大切なものと捉えています。
- このような考え方に共感していただける方を是非地域おこし協力隊としてお出迎えできればと思っています。

Q. どんな方に地域おこし協力隊として来ていただきたいですか？

- 「10 年後にこの集落がなくなっていたら寂しい」という素朴な住民の声に寄り添える方が良いですね。

- こういったいわゆる山間の小さな集落なので、何よりも助け合いが大切になります。コミュニケーションもそうですし、感謝と敬意の気持ちを自然と持てる人であれば大丈夫だと思います。
- また協力隊卒業後のことを考えると、定住となった場合私たちは米づくりを教えたり、多少地域の中にある仕事を紹介したりはできると思いますが、どこか雇用できるような大きな会社がある訳ではないので、何でも良いんですが、自分でこういうことをやってみたいという思いがある人だと嬉しいですね。私たちも協力隊の人たちの“やりたいこと”を是非応援したいと思います。



(収穫祭の様子)

サポート体制

今回募集する地域おこし協力隊は、福山新田集落が受け皿となります。中でも集落内で活発に活動する「福山新田山暮らし支援会」のメンバーと一緒に活動いただくことが多くなります。福山新田集落には、今現在地域おこし協力隊卒業生が2名、近隣の集落にも協力隊卒業生2名がいるので、何かあれば相談に乗っていただける人たちが身近にいるのが特徴の一つです。

また市内には現役の地域おこし協力隊をサポートする相談員（元地域おこし協力隊）がいるほか、これまで23名の地域おこし協力隊を受け入れ、うち17名が定住しています（定住率73%）ので、色々な方から相談、支援が受けられる体制があります。



（集落代表の野村さん（左）、世話人の田淵さん（右））

3年後のイメージ

○就農

- 福山新田で定住する場合、米づくりは切り離せない暮らしの一部です。農業の知識・技術、農地の斡旋など地元の方たちのサポートのもと就農を支援します。
- ただし米づくりだけで一年間生活するだけの収入を得ることは現実的に厳しいです。このため米づくりを中心にいくつかの仕事を組み合わせて生活を送っていただくことになります。

○炭焼き

- 福山新田で作っている白炭という炭は、火持ちが良く長時間使えるという特徴を持っています。有名なところで言えば備長炭も白炭です。
- 今現在炭焼き職人3人が福山新田で炭づくりを営んでいます。炭焼き技術を学んでいただくことも可能です。

○米づくりと組み合わせる仕事とは？

- 実際に福山新田に移住した人たちは、米づくりのほかに酪農、公園管理、除雪などの仕事を組み合わせて暮らしています。
- またリモートでできる仕事をお持ちの方も大歓迎で、実際に移住者のなかにはリモートワーカーもいらっしゃいます。
- このほか、福山新田にある資源等を活かした生業づくりにもチャレンジいただけます。現役の地域おこし協力隊の方は、ドローンを活用した農作業を受託するなどの仕事を新たに立ち上げたりしています。



(福山新田の炭づくり)

今回の募集の特徴

- ・農山村の暮らし、The・田舎暮らしが実践できる。
- ・自然条件は厳しいながらも、人々の支え合いのなかで生活を営むことができる。
- ・“福山新田を守る”（いつまでも笑って暮らしていける村）という目標に沿っていれば、様々な取組に挑戦できる環境がある。
- ・「こんな暮らしをしたいな」という想いを応援してくれる人たちがたくさんいる。

こんな方を求めています

- ・お爺ちゃん・お婆ちゃんをはじめ、お話しするのが好きな人
- ・農山村の暮らしに興味がある、実践してみたい人
- ・何となくでも“こんなことをやってみたい”“将来こんな暮らしをしてみたい”という思いや夢がある人



（冬の「よらん会」の様子）

募集要項

関連ファイル	・ 魚沼市地域おこし協力隊募集要項 ・ 申込書（地域おこし協力隊）
業務概要	○移住者の受入や関係人口創出など、人の輪を広げる活動 →福山新田にある資源（ひと・もの・こと）をフル活用した集落への共感者を増やす情報発信、イベントの企画・実践 ○その他、福山新田の存続に向けて必要な取組の提案・実践
募集対象	・ 申込時点で、3大都市圏内をはじめとする都市地域等に住民票があり、契約期間中に魚沼市に住民票を異動することができる方（過疎、山村、離島、半島等の条件不利地域を除く。） ※詳しくは、総務省ホームページの地域おこし協力隊「地域要件確認表」を参照ください。 ・ 20歳以上で心身ともに健康で誠実に業務を行うことができる方 ・ 魚沼市の特性や風習を尊重し、人と積極的にコミュニケーションを図ることができ、地域住民と協働で活動できる方 ・ 地域おこし協力隊としての活動期間終了後も、魚沼市と意欲的に関わろうとする意思のある方 ・ 普通自動車免許を有している方（ＡＴ車限定可） ・ パソコン（メールの送受信、ワード、エクセル）の一般的な操作ができる方 ・ 身元を保証する方がいること（独立し生計を立てている方で、親族・知人可）
募集人数	1名
事務所	福山体育館内「ほこん処」に机を置き、ここを拠点に活動していただきます。
勤務時間	業務委託契約のため、勤務日や勤務時間の設定はありませんが、4週4休を心がける等、無理のない活動スケジュールを心がけてください。
雇用形態・期間	委嘱形態：業務委託契約 契約期間：活動開始日（契約日）から最長3年とします。 ※着任日は相談により決定させていただきます。 ※地域おこし協力隊としてふさわしくないと判断した場合、委託期間中であってもその契約を解くことができるものとします。

委託料等	◆人件費分 月額200,000円 ◆活動経費分 下記について隊員ごとに協議の上、魚沼市の規定により支給します。 ・住居(活動拠点)借上費、活動車両借上費、活動車両燃料費、出張旅費、傷害保険料 ・光熱水費等は、隊員の自己負担となります。 ・生活に必要な家財道具、家電製品等については、隊員が準備をしてください。 ・健康保険及び年金保険料、家財保険料等は隊員の自己負担となります。
申込受付期間	令和8年9月1日(火)から令和8年11月30日(月)まで ※ただし、受付期間内であっても採用者が決定した場合は、申込受付を終了することがあります。
審査方法	【着任までの流れ】 (1) 魚沼市北部事務所に問い合わせ(電話又はメール) 電 話：025-797-2360 メール：hokubu@city.uonuma.lg.jp (2) オンライン説明会の開催 ・書類を送る前に話を詳しく聞きたいという方に、オンライン説明会を開催します。 ※オンライン説明会無しでお申し込みいただくことも可能です。 (3) 現地体験 ・応募者と魚沼市および関係者がともに採用後の活動をイメージできるよう、面接の前に魚沼市において現地体験をしてもらうことも可能です。 ・現地体験の参加により応募書類の提出が必須となるものではありません。※現地体験無しでお申し込みいただくことも可能です。 ・日程調整の上、現地体験と面接を同日に実施する場合もあります。その場合は、現地体験の際に応募書類の提出をお願いします。 ・現地体験のための交通費等、応募に係る経費はすべて応募者の負担となります。 (4) 応募書類の提出(一次審査) ○提出書類 ・地域おこし協力隊申込書 ・履歴書(市販の履歴書に必要事項を記入してください。)※顔写真添付 職務の経歴については、詳細にご記入願います。履歴書に書ききれない場合は、任意様式で作成し、履歴書に添付してください。 ・レポート 活動希望地区において取り組みたい具体的な活動や、任期終了後の展望など1,000文字程度のレポートを作成し履歴書に添付してください。 ・提出いただいた書類は今回の選考のみで使用し、返却はいたしません。

	○提出先・応募先 〒946-0292 新潟県魚沼市須原 520 番地 魚沼市北部事務所 (5) 面接の実施(二次審査) ・ 魚沼市で面接試験を行います。なお、面接日は日程調整後決定します。 ・ 面接のための交通費等、応募に係る経費は全て応募者の負担となります。 ・ オンライン面接も可能です。 (6) 選考結果の通知 ・ 文書で採用の可否を通知します。 (7) 採用の内定について ・ 応募から採用の内定までは、最短で1か月程度を要する予定です。 ・ 採用の内定については、(6)の通知でお知らせします。 (8) 採用日(＝着任日＝委嘱の日) ・ 採用日は、相談のうえ、採用の内定通知日から半年程度以内の日に設定することができます。ただし、以下の点にご留意ください。 ・ 採用日については、応募者の事情に可能な限り対応しますが、ご希望に添えない場合もあります。 ・ 【重要】住民票の異動は、必ず採用日以降または採用日のおおむね1～2週間前に行ってください。それ以前に住民票を異動された場合、国の制度上の要件を満たさなくなり、内定段階であっても採用が取り消しとなる場合があります。
--	--